# ◇2003年度　浦野環境教育奨励金　活動報告

## エコツーリズムの光と陰2
## ―世界自然遺産の島・屋久島の現状―

環境カウンセラー　柳田　一郎

### 1　はじめに

私は、平成8年度から、屋久島の自然環境を保全しつつその優れた自然を活かした新しい地域づくりを行うための県の施策「屋久島環境文化村構想」に関わり、12年度から14年度まで3年間（財）屋久島環境文化財団に勤務し、屋久島に住んだ。第14回学会大会では「エコツーリズムの光と影―屋久島の現状―」と題し、屋久島の自然とエコツーリズムについて、住民の目から見た実像をご報告した。今年度は、屋久島のエコツーリズムの問題点を克服するための取り組みと環境教育の位置付けについて、ご報告したい。

### 2　実践内容

平成15年4月から16年3月にかけて、エコツアー体験、世界自然遺産登録記念事業など島内外のイベント参加、関係者の意見聴取、全国の動向把握を行った。

調査内容（1）問題点の克服、（2）住民の意識、（3）世界自然遺産登録10周年記念事業、（4）屋久島エコツーリズムにおける環境教育の内容

### 3　問題点の把握

(1) 思いこみ…来島者の知識不足や誤解による極端な理想郷化
(2) 反発…観光への住民の予想以上の反発
(3) 質…道案内ガイド主流、エコツアーガイドの不足・質の低さ
(4) 料金…お金をとること自体や高い料金への批判

### 4　改善への取り組み

(1) 総括

屋久島エコツーリズムに対する評価・賞賛とともに、一方で高まった批判は関係者の危機感へつながり、問題点を克服しようという取り組みにつながった。

(2) 平成15年度の取り組み

世界自然遺産登録10周年を迎えるこの年、「屋久屋エコツーリズム支援会議」は、島内の関係者のみで検討を進め、屋久島に集中した地域的な論議を展開し、成果である「屋久島エコツーリズムの推進のための指針及び提案等」を発表した。

①行政

ア　国（環境省・林野庁など）

「マナービデオ」、「エコツーリズム推進事業」の展開、グリーンワーカー事業、施設整備、屋久杉樹勢回復・植生回復・湿地保全等森林保護対策の実施

イ　県、町の各種支援策の展開

屋久島環境文化村構想の推進、環境・観光施策、山岳部利用対策等の推進

ウ　「屋久島世界自然遺産登録10周年記念シンポジウム」の取り組み

「屋久島の取り組むべき課題等について具体的な方向性を見出すことを目的として（県知事挨拶から）」開催され、地元の若者による基調報告、エコツアーへの素材提案と体験、利用者負担の議論まで、10年の変化を見据えた様々な議論が行われ、報告書にとりまとめられた。

a　日時　平成15年10月28日(火)～29日(水)

b　主催　屋久島世界自然遺産登録10周年記念事業実行委員会（鹿児島県、上屋久町、屋久町、屋久島環境文化財団）

c　内容

・基調報告（子供達や青年団からの報告）、基調講演（立松和平氏）と交流会
・研修エコツアー（3コース）…多様な環境学習素材を巡り、意見交換
・パネルディスカッション「自然遺産活用のモデル～環境キップ制度へ～」
・総合セッション「島の将来像を描き、世界自然遺産としての方向を提案」

②観光業界…観光協会ガイド部会の自主研修や情報発信などの取り組み
若手ガイド達の改革への取り組みと地域貢献への意欲
優良ガイド会社・団体の着実な展開
③屋久島環境文化財団
ア 「自然体験セミナー」、「ガイドセミナー」継続実施
イ 「平成15年度エコツーリズム支援事業」実施
冊子「屋久島エコツーリズムの推進のための指針及び提案等」発行
ウ 新規事業「屋久島研究講座」開催…自然、歴史、民俗について7回の講座
(3)「屋久島エコツーリズムの推進のための指針及び提案等」の詳細
①発行 平成15年10月発行（A4判21ページ）
②概要
ア 会議の構成員を島内に限定し、平成14年度から15年度に11回開催
イ 自然環境の保全と経済的発展が両立するエコツーリズムの発展が屋久島の産業振興にふさわしいとし、住民や関係機関が一体となって屋久島独自の観光産業形態を作り出すことを提案
ウ 自然環境の保護・保全のため、入山制限や、利用者に環境協力金という形で維持管理費用の負担を求める有料環境キップ発行や山岳部トイレチップ制などの検討が、早急に必要と報告

## 5 環境教育の位置付け

昨年発表したエコツーリズムの3要素①自然保護②環境教育③地域貢献のうち、全国のエコツーリズムに不安を感ずるのが、「環境教育の不足」である。屋久島は、いわゆる「自然保護の聖地」として理想化され、「このまま変わらないで欲しい。」とも言われる。しかし、この島には、自然保護という一言では言い尽くせない自然と人との戦いの歴史があり、「自然との共生の知恵」がある。

屋久島エコツーリズムにおける環境教育とは、このことを伝えることである。美しい自然を体験するだけでなく、自然との共存の困難さも伝えなければならない。屋久島の自然に関する正確な情報発信とその自然に培われた知恵の伝達こそが、屋久島エコツーリズムにおける環境教育である。

## 6 提言…より良いエコツーリズムのために

(1) 前年の提言
①関係機関の連携 ②研修、自主学習の推進
③3要素へのこだわりと経済性
④他地域との連携 ⑤消費者教育
(2) 今年の提言
①エコ・グリーン・ブルー・ツーリズムの展開
ア 海、山、川、全てにつながる条件に支えられた第1次産業という身近な資源を活用したい。
イ エコツーリズムとグリーンツーリズム（農林業体験交流観光）、ブルーツーリズム（漁業体験交流観光）の一体化を図り、エコツーリズムの効果を、第1次産業にも波及させて欲しい。
②環境教育の視点
エコツアーの内容が環境教育につながるかというだけではなく、ガイド自身が、環境保全に関する規制に違反しないことを最低限のモラルとして要請し「環境教育の担い手」という自負を持ち、自覚して行動して欲しい。
③利用者負担の導入と入山制限
屋久島の将来を左右するほどの課題であると考える。無責任な側面も持つ島外の声に左右されることなく、住民自身が島の将来にわたる問題として、真剣かつ建設的に議論して欲しい。